

昭和青年愛國歌

(一) 幾千年來皇恩に
幾千年來君寵に
さくやさくらの大八洲
香るや菊の秋津島

(二) 金匱飲けず永久に
神統清く一系の
峰吹く松の風青く
五十鈴の水に榮あり

(三) 朝日に動く自轉倒の
黄金の種波ゆたかにも
英氣は島に漲りて
多らく自給のうまし國

(四) 環れる海は御鏡の
四方の國船慕ひ來る
八咫に開ける姿にて
愛親の徳極みなし

(五) 月日に磨く玉銚の
貫き燃えて神代より
道昭々とあめつちを
雄々しく清き大和魂

(六) 正義を楯に忠勇の
深山の奥もあら磯も
劍の稜威かがやきて
かつて異寇の汚れなし

(七) あく神州の天子國
萬邦無比の雪白く
空に一つの日の本は
聳えて高し玉芙蓉

(八) かかる尊きすめ國に
感謝の潮よのづから
生れし幸を思ふ時
熱き血潮と躍らすや

(九) 天運今やめぐり來て
神政維新日もすでに
一度にひらく木の花の
世界は産みの惱みあり

(十) 中にもあはれ我國は
狂へる思想内に満ち
未曾有の難に民瘦せて
窺ふ仇は外に寄る

(十一) 世はうば玉の五月間
浮世をなげき誓むる
神人出でて終末の
雄叫び聞けや時鳥

(十二) ああ是の秋ぞ奮ひ起て
國護る愛に世を抱きて
老いも若きも一筋の
祖國の難を救へかし

(十三) 身を捨て家を顧みず
父祖の歴史を鏡にて
君に捧げし賊忠の
今こそ磨け日本刀

(十四) 神を離れて日本なく
本に報ゆる大義こそ
大君まして赤子あり
みするの民の務めなれ

(十五) 天津御祖のおん經綸
詔の旨をかじこみて
知らずや汝が大使命
今ど奮へや大日本